

和歌山県田辺市		●活動名 大塔地域学社融合推進協議会				●関係する学校名 田辺市立鮎川小学校 田辺市立大塔中学校				
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	194 人	●体制図 		
活動区分	学校支援活動	—		—		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 2人					
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置		ボランティアの数	延べ登録人数 121人	企業・NPO等との連携	無				
参考URL	—									
●連絡先		田辺市教育委員会 生涯学習課		☎ 0739-26-4925						

●活動の概要・経緯

大塔地域の小・中学校と大塔公民館では、平成26年度から「学校支援地域本部事業(大塔地域共有コミュニティ)」を立ち上げ、地域・学校・家庭が連携・協力して子供を育てることを主目的として取り組んだ。学校を支援する地域人材を掌握し、関係団体や機関と学校とのつながりを整理し、連携・融合が円滑に進む組織づくりを行った。

平成30年度から「大塔地域学社融合推進協議会」として、これまでの組織の再編成を図り、実践も継承しつつ新たな展開を構築しながら取組を推進している。特徴的な取組として、組織の中に3部会を設け、それぞれの部が主体的に事業の企画・立案・運営・評価を行っていることである。事業の運営に関しては、公民館主事が地域と学校を繋ぐコーディネーターとなり、地域住民や支援団体との調整役に努めている。また、学校を核とした地域づくり等にも取り組んでいる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

行事支援部が企画する活動として、「選択交流学习」がある。小学5年生から中学1年生の児童・生徒が、地域住民が指導する8つの講座のいずれかに参加し、特色ある学習の機会を得ている。また、「大塔リフレッシュ大作戦」では、全小・中学生と多くの地域住民とで清掃活動を行っている。

学習支援部では、専門的な知識や技能を有する地域人材を集約し、学習支援への連絡調整を行っている。また、ICT機器を活用しながら地域の歴史や文化の伝承を行うとともに、習字・ミシン・調理の指導等、様々な場面で支援を行っている。生活支援部では、防災学習や避難訓練等の企画をしている。児童・生徒の登校時の見守り活動も行っている。放課後の児童の居場所である「鮎川ふれあいスクール」の内容充実を図るとともに、指導者である地域の協力者を増やすことに努めている。

【実施に当たっての工夫】

大塔地域学社融合推進協議会は、様々な学校支援や地域活動の充実を図るため、組織編制の工夫を行っている。大塔地域共有コミュニティ組織を基盤とし、地域と学校をつないで活発な活動を推進するために、行事支援部、学習支援部、生活支援部の3部会を設け、それぞれの部会が主体となって事業を企画・立案・運営し、活動内容の充実を図っている。また、それぞれの活動を実施する際、公民館主事を中心とした複数のコーディネーターの存在が大きく、活動目的に合致した地域人材の選定や調整を行ったり関係団体や機関と学校をつないだり、効果的な学習活動へと発展させる役割を担っている。同時に、地域住民がそれぞれの分野で活躍する機会を設けたり、地域の文化や伝統の継承者の育成を図ったり、様々な学校支援活動を通して地域の活性化に努めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちは、ゲストティーチャーによる授業で専門的な知識や技能に触れ、学習意欲の向上につながった。また、地域の良さを発見し、地域の担い手としての自覚が芽生えた。学校は、地域住民の授業支援によって、専門的な知識や技能を児童に習得させることができ、学習効果を高めることができた。また、活動範囲を広げたり指導内容を深化させたりすることも可能となった。地域住民や団体は、学校と関わる機会が増えることで児童・生徒との距離が近くなり、また、専門的な知識等を発揮する場を得る事もでき、生きがいにもつながった。地域コーディネーターの配置により、地域の教育資源の発掘や人材の把握、関係団体や機関との連携が円滑に進むようになった。大塔地域共有コミュニティ組織が確立しているため、多角的に学校支援を行うことができた。

●その他

地域の指導者が中心となって、選択交流学习を実施している。生け花、おもしろ科学、大塔探訪等、8つの講座がある。「鮎川ふれあいスクール」は、放課後の居場所づくりとして年間25回の講座を開設している。中学生がボランティアとして協力している。



指導者から「選択交流学习」で、地域の生け花を教わる。



「鮎川ふれあいスクール」による「出前講座」。